

榎本秋先生によるプロット添削

添削例

シェフの助手としてなら百目にも料理のスキルが必要になる。大丈夫だろうか？
腕が切られているので作業はできるのか。
そもそも悪目立ちしないだろうか。可能な場合、ストーリーや描写は新鮮なものになると思う。

『シェフのストーカー』

妖がいるが、一般的には知られていない現代。圭太は実家でごく稀に妖を食材にしていた。妖の一部を食材として見えるようになり、気になる妖をストーカーしてしまいう性癖がありつつ、料理人として注目されていた。

ある日に腕を失った百目を見かけ、追いかけると謎の組織に襲われているところを目撃する。百目の目玉には秘薬の作用があると言われ、圭太の中でも非常に興味がある妖だった。斬られた腕についていた目玉ならやってもいい、代わりに人身売買の組織に捕まった仲間を助ける手助けをしろと、圭太はその要求を呑む。

圭太はストーカーとしての知識を使い、情報を探っていく。圭太がシェフとしていくパーティーに関係者がいるという情報を掴み、**百目を助手に潜入する**。しかし調査は失敗に終わり、そのせいで百目が苛立ち、圭太との交渉を取り消そうとする。しかし圭太は調査も料理も焦ったら台無しだと、百目を連れて圭太の地元で気分転換をする。**圭太がパーティーで掴んでいた情報を教え、見直した百目は共にダーツバーへといく。**

実際には失敗ではなかったことになる。
なぜパーティー会場で話さなかった？

関係者がいる

凜の存在が唐突。当然現れ、事件の核心に関わるのは読者が困惑してしまう。序盤から出してしまうのも手。

具体的なエピソードを出したい。

関係者を見つけ、話を聞こうとするも訊く耳を持たない。そこで百目がダーツでの賭けをする。百目の力で圧勝し、逃げ出す関係者を押さえ、百目を自分の相棒だと圭太は自慢する。その後、幼馴染の凜と遭遇する。心配される圭太に疑問を持った百目は事情を訊く。圭太は妖の存在を知っていたせいで浮いていたが、寧ろ受け入れられないものが悪いと圭太は豪語して、二人の絆が深まる。

アジトへと潜入すると、凜の姿を捉える。凜は日頃から圭太をストーカーし、組織がその情報を買っていたと分かり、圭太は逃げようとするも阻まれる。百目に庇われ、逃げ出した圭太は策を考える案がまとまらない。その時に同じく組織に解放された凜と合流し、家族が人質にとられていたと告白し、謝ろうとするが圭太が止めさせ、百目を助けたいという強い意志が生まれる。そこで凜は組織の情報を提供し、お互いのストーカー能力を活かして百目たちを救う。その後、百目は目玉を渡そうとするも、圭太は相棒を具材にできるかと拒否。代わりに助手になれと、百目に居場所を提供する。

ストーカーしていたキャラクターが逆にストーキングされていた展開はgood！

榎本 秋先生からのアドバイス



榎本 秋先生
(小説創作科 講師)

組織は妖を食材にする圭太を元からマークしていたようだが、そのあたりをもっとエピソードに組み込んでも良かったと思います。

最終的に百目の仲間は助かったのでしょうか。人身売買なので難しいかもしれません…。

また、組織がなにをしたいのか（ただの人間であるはずの凜を利用してまで）が曖昧なので、しっかり設定してあげた方が良いでしょう。